



板橋区中学生海外派遣事業

Itabashi Junior Ambassador Program

(いたばし・ジュニア・アンバサダー・プログラム)

派遣先国との友好関係を深め、板橋区の国際交流を進展させる。また、派遣生徒自身が、外国における異文化交流やホームステイなどを通して、外国の自然・文化及び社会を直接体験し、グローバル化や英語学習への意欲を更に高めるとともに、国際感覚を身につけた、将来の板橋区を担う人材の育成を図ることを目的として、板橋区中学生海外派遣事業を実施した。

1 事業の内容

区立中学校の生徒 22 名について、8 月 16 日（金）から 8 月 22 日（木）までの 7 日間、英語が第二外国語として普及している多民族国家マレーシアへ派遣した。

【派遣期間中の主な活動】

- ホームステイ（ペナン島 3 泊 8 月 17 日（土）～19 日（月））
- 現地校（Chung Ling Private High School）への訪問、交流
- ペナン政府主催説明会（ペナン植物園、ペナンケーブルカー計画、ペナン LRT プロジェクト、ペナン州経済計画）への出席
- 日系企業（Toray Industries (Malaysia) Sdn. Berhad）への訪問、交流

2 事業の英語名称「Itabashi Junior Ambassador Program」について

大使を意味するアンバサダーの言葉のとおり、派遣生徒一人ひとりが板橋区の代表として、板橋区立熱帯環境植物館との間で「友好提携に関する共同声明」を結んでいるペナン植物園や、多様な文化の交差点として発展したペナン島への訪問等を通じて、板橋区の国際交流を進展させていきたいとの思いから名付けた。

3 派遣先

マレーシア（ペナン州、クアラルンプール）

4 応募状況

応募者総数：120 名

派遣生徒数：22 名（倍率 5.46 倍）

※ 区立中学校各校から、1 名を派遣

※ 派遣生徒の学年・男女の内訳

第 1 学年	1 名	女子	17 名
第 2 学年	4 名	男子	5 名
第 3 学年	17 名		

5 現地スケジュール

日 程	時 間	交 通	行 程
8月16日 (金)	6:30 10:20 16:45	専用バス MH089	板橋区役所集合・出発、成田国際空港へ 成田国際空港を出発 クアラルンプール国際空港到着 クアラルンプール市内にて夕食後、ホテルへ ＜クアラルンプール：ホテル泊＞
8月17日 (土)	5:40 8:20 9:20	専用バス MH1138 専用バス	ホテル出発 クアラルンプール国際空港発 ペナン国際空港着 世界遺産ジョージタウン市街等ペナン市内見学後、現地校へ オリエンテーション後、ホストファミリーと対面、各家庭へ ＜ペナン島：ホームステイ＞
8月18日 (日)	終日		ホストファミリーと過ごす ＜ペナン島：ホームステイ＞
8月19日 (月)	終日		現地校（Chung Ling Private High School）訪問・交流 ＜ペナン島：ホームステイ＞
8月20日 (火)	終日	専用バス	現地校（Chung Ling Private High School）訪問・交流 ホテルへ ＜ペナン島：ホテル泊＞
8月21日 (水)	午前 午後 21:20 22:20 23:30	専用バス MH1165 MH088	ペナン政府主催説明会出席 日系企業（Toray Industries (Malaysia) Sdn. Berhad）訪問 ペナン国際空港出発 クアラルンプール国際空港到着 クアラルンプール国際空港発（欠航） ＜クアラルンプール：ホテル一時休憩＞
8月22日 (木)	4:30 8:00 16:30 19:20	シャトルバス MH048	ホテル発 クアラルンプール国際空港発 成田国際空港到着 板橋区役所到着後、到着式、解散

6 派遣の成果

- 海外派遣事業への参加による自身の変化について複数選択で回答してもらったところ、「海外への興味・関心が高まった」20名、「英語のコミュニケーション力を高めたい」19名、「日本のことをもっと海外の人に知ってもらいたい」15名等と、全てプラスの回答であった。
- ホームステイ及び学校交流に対する満足度が高く、英語に苦戦しつつも、英語が通じた喜びや、多文化に触れたこと、日本について紹介できたこと、現地に友達が出来たこと、特にホストファミリーや現地の学校の友達に親切にしてもらったことを挙げる生徒が多かった。
- 効果測定（J's GROW 教育活動効果測定システム）の結果からは、派遣事業を通じて「自己効力ⁱ」の効果量の伸びが非常に大きく、次いで「影響力の行使ⁱⁱ」、「柔軟性ⁱⁱⁱ」が伸びていた。慣れない海外での生活や、団体行動を通じて、「自分ならできる」と自信を持って他者と協働することで行動が変わったものと推測される。

ⁱ 何らかの課題に直面しても、「自分ならできる」と自信を持って物事を進めることのできる能力

ⁱⁱ 他者に対して自分の考えや目的を伝えながら、ともに協働して物事を進めることのできる能力

ⁱⁱⁱ 変化への対応とともに、その場その場で機転を利かせて行動を適宜修正できる能力